



証券コード:8074



4 4 4





To the

2<u>↔</u>9







% A





第 144 期 2022.4.1-2022.9.30



代表取締役社長田村特之

「モノづくり」「すまいづくり」 「環境づくり」「まちづくり」の分野で 「つなぐ」価値創造を発揮します。

2023年3月期第2四半期 経営成績

売上高

営業利益

経営利益

親会社株主に

帰属する

1株当たり配当金と株主還元率の推移
申間配当金 ■ 期末配当金 一 株主還元率

234,018百万円**

5.134百万円

5,684百万円

3,663百万円

※収益認識基準適用後

前年同四半期比 10.8%增

前年同四半期比 15.2%增

前年同四半期比 51.5%增

前年同四半期比 36.3%增

2019年 2020年 2021年 2022年 2023年 ※3月期 3月期 3月期 3月期 3月期

※ 設立100周年記念配当10円含む。記念配当除いた環元率は31.8%

株主の皆さまには平素より格別のご高配を 賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、2020年4月に「ユアサビジョン360」の2ndステージとして、2023年3月期を最終年度とする中期経営計画「Growing Together 2023」を策定し、「『つなぐ』複合専門商社グループ」のキャッチフレーズのもと、成長事業戦略、コア事業戦略、経営基盤の強化を推進しております。

「総合力」「チャレンジ」「コミュニケーション」をキーワードに、既存コア事業を強化するとともに、"社会課題解決ビジネス"を核とした9つの成長事業を発掘・育成し、更に経営基盤の強化を図っています。2022年度は、中期経営計画の第2ステージ「Growing Together 2023」の最終年度に当たりますが、当社グループオリジナルの「つなぐ」パッケージもかなり出そろってきています。 ト3~4参照 今後も引き続き「モノづくり」「すまいづくり」「環境づくり」「まちづくり」の分野で「つなぐ」ソリューションビジネスの展開に注力してまいります。

長期ビジョンと中期経営計画

「ユアサビジョン360」2026年 (創業360周年) のビジョン





2023年3月期 業績予想



※収益認識基準適用後

コア事業分野については、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進により、ロジスティクス機能強化やデータを活用したソリューション提案を推進しております。ロジスティクス分野では、AIアルゴリズムで最適配車を計算し、走行距離の最短化を図るなど、「物流をデータで捉える」仕組みづくりを推進しております。

また、2022年7月から9月に全国5カ所で開催いたしました「つなぐグランドフェア2022」では、会場で取得したご来場者様の行動ログを仕入先様、当社、販売先様のサプライチェーン全体で共有し、展示会終了後のご来場者様のフォローデー

タとして活用しております。 ▶P10参照

サステナビリティ推進の取り組みとしては、環境・エネルギーソリューションビジネスと当社グループにおける地球環境との調和に向けた取り組みを推進しております。

ビジネス面では、エネルギー統合管理システム「YES-net」を活用したCO2排出量の現状把握を切り口に、省エネコンサルティングの専門部隊であるYES(YUASA ENVIRONMENT SOLUTION)部によるカーボンニュートラル提案を推進しております。

P5参照 当社グループの取り組みとしては、マレーシア・クダ州ムルボック湿地保護林に

おけるマングローブ林の再生活動や、当社グループが北海道に所有する社有林の整備を通じ、生物多様性の確保やCO₂削減に向けた活動を行っております。

P6参照

2023年3月期第2四半期末の中間配当におきましては、当初の予定どおり60円とし、年間配当金は140円を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、何卒相変わりませぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ユアサ商事グループの未来へ
 「本**」価値創造への取り組み

当社グループではモノづくり、すまいづくり、環境づくり、まちづくりの各分野における様々な社会課題解決に、

(つなぐ) 価値創造で挑戦しております。下記ではその一例をご紹介します。

製造現場の省力化

FOOMA JAPAN2022で実機展示

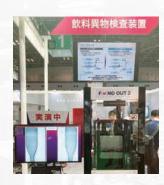
最新技術の活用で自動化、省人化を提案

~AI/ロボット/力触覚伝達技術が導く食品工場イノベーション~

「飲料異物検査装置 FaiND OUT2」

- ●飲料製造工程の省人化・省力化に貢献
- ●過酷な目視検査を自動化へ
- AI の活用で異物と泡の判別を実現し、誤判定が多かった異物検査 装置の精度向上が実現

FOOMA JAPAN 2022





「食材ピッキング装置」

- ●バラ物軽量ハンドで不定形な食材をピッキ
- ●力触感センサ"リアルハプティクス"を開発中

「リライタブルレーザーシステム」

- ●レーザー印字装置、Sler、当社の3社で、通函用オリジ ナル印字装置を開発
- ●レーザーの光により、コンテナ等に非接触で文字や バーコードの印字・消去を実現
- ●ラベルゴミゼロのクリーンな運用でコスト削減へ



工事点検業務の効率化



[ITENE]

- ●集合住宅における予約管理システムをご提供
- ●マンション管理会社とシステムベンダーをつなぎ開発
- ●工事会社と居住者の利便性向上



専用ホームページ https://itene.jp/

防災•減災



「八千塀®」

- 危険なコンクリート塀を軽量なアルミフェンスへ
- ●販売先様・仕入先様・当社の3社で開発
- ●既存の支柱や基礎を流用でき、低コスト・ 工期短縮を実現

「つなぐ」ソリューション事例

こちらでご紹介した ソリューションのほか、合計20以上の 「つなぐ」ソリューションを 推進しております。

「つなぐ」ソリューション動画はこちら







「遠隔ICUプレハブ病棟設置事業」

●当社グループにて、病棟設計とプレハブハウス を製作し、空調などの機器類を組付け、トータル で提案

開発途上国への医療支援



環境・エネルギーソリューションビジネスの推進

当社はYES (YUASA ENVIRONMENT SOLUTION) 部と呼ばれる省エネコンサルティングの専門部隊があり、幅広いノウハウと高度な提案力をもってお客様のカーボンニュートラル達成をご支援しています。

エネルギー統合管理システム [YES-net] を活用したエネルギー分析や、現場を確認して運用改善のアドバイスも行う省エネ診断といった現状把握から、補助金を活用した設備更新や再エネの導入といったアクションプランまで、ワンストップでご提供します。

●当社がご提案するカーボンニュートラル達成のためのソリューション

7 373 475 == 1 777 2780 3760 3750 77

STEP1 CO₂排出量の現状把握と管理

ユアサ商事のご提案

- ✓ YES-net による エネルギー使用量の管理・分析
- ✔ 省エネ診断による現状把握

カーボンニュートラル 支援紹介動画はこちら



YES部メンバー

STEP2 CO。削減目標の策定

STEP3 中長期計画の作成と実行

ユアサ商事のご提案

✓ STEP1の現状把握を基に コスト削減・CO₂削減の 最適なご提案

ユアサ商事のご提案

- ✔ 補助金を活用した設備更新
- ✓ 太陽光発電設備の導入
- ✔ オフセット提案

マレーシアでの植林活動

公益社団法人日本マレーシア協会と協働でクダ州ムルボック湿地保護林において、マングローブ林再生を通じた環境保全活動「ユアサ商事の森プロジェクト」を開始しました。

当社グループは1970年代初頭より木材の輸入事業を通じマレーシア国との取引を本格的に開始し、1995年には駐在員事務所を設立、1997年には現地法人を設立し、現在は2社の現地法人を通じ工作機械などの生産財の販売事業とメンテナンス事業を展開しております。当社との関係が深いマレーシア熱帯雨林の再生・保護と、当社グループが目指す気候変動への対策(森林や生物多様性の維持)に向け具体的に行動するため、2020年に公益社団法人日本マレーシア協会様と協働でマングローブの植樹活動をメインとする環境保全活動を開始することを決定し、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されておりましたものの、2022年度より活動をスタートいたしました。今年度は約1,000本の育苗・植林活動に加え、地域の小学生を対象とした環境教育プログラムや地域住民の生活向上プログラム等を実施する予定です。



地域の方が植林活動をしている様子



地元学生を対象とした環境教育の様子(日本マレーシア協会が実施した過去の活動より)

Pick Up 補助金を活用した設備更新

補助金内容のご説明から申請・施工までトータルでサポートが可能です。事前ヒアリング・現地調査を行い、最適な設備と補助金のご提案を行います。

2021年度補助金活用事例

①ボイラー・空冷・水冷エアコンから高効率空調に更新

灯油燃料のボイラーから電気式空調に更新することで CO_2 削減に大きく貢献しました。





②ビル用マルチエアコンを高効率型に更新

補助対象経費に対して約40%の補助額取得となりました。





森林×脱炭素チャレンジ2022

グループ会社のユアサ木材株式会社は林野庁の呼びかけによる 「森林×脱炭素チャレンジ2022」に応募し、 同庁よりグリーンパートナーとして認定されました。

当社グループのユアサ木材では、北海道に所有する3か所、計102.26へクタールの森林において、間伐や植林活動を行っています。このたび同社の活動が林野庁の「森林×脱炭素チャレンジ2022」にて森林整備を通じて脱炭素に貢献する「グリーンパートナー2022」として認定されました。2020年から2021年の間に整備を行った森林における年間のCO2吸収量は22t-CO2と算定されております。今後は間伐された木材の利用促進を通じ、教育機関の木育*活動やワークショップ等で地域の産業振興にも貢献してまいります。

※木材との関わりを深め、豊かなくらしづくり、社会づくり、そして森づくりに貢献する市民の育成を目指す活動





And the second s

フアサ木材のポスター

成長事業戦略

海外事業



国内で培った商品力やソリューション 機能を海外で発揮し、新たな価値を 提供します。

Growing Together2023 進捗

2022年9月12日~17日に米国で開催された、米国最大 の製造技術の見本市であるIMTS2022(International Manufacturing Technology Show 2022)に出展しま した。来場者数は約86,000名を記録し、各メーカー様とと もに、最新鋭の機械や自動化、工程集約など様々なお客 様のニーズに対応した展示製品をPRいたしました。



取扱高 ■計画 ■実績 294億円 (2022年3月期実績) 740億円 2020年 2021年 2022年 2023年 3月期 3月期 3月期 3月期

ロボ(AI)& IoT事業



グループの総合力・取引先様との ネットワークを活用し、様々な 社会課題解決に貢献します。

Growing Together2023 進捗

2022年7月~9月、全国5会場で行われた「つなぐグラン ドフェア2022] テーマゾーン内 [モノづくり] エリアでは、 実機にこだわり、工場や倉庫の自動化や最適化をご提案 する最新の商品・ソリューションを展示いたしました。 また、AI相談窓口を設置し、「モノづくり」「すまいづくり」「環 境づくり」「まちづくり」すべてにおけるAI活用例をご案内 するとともに、お客様の困りごとを解決するAIの活用方法 をご提案いたしました。





つなぐグランドフェア2022で展示された AI相談窓口 [Robo Combo]

売上高 (単位:億円) ■計画 ■実績 116億円 (2022年3月期実績) 170億円 (2023年3月期計画)

環境・エネルギー ソリューション事業



ワンストップソリューションで、 お取引先様のカーボンニュートラル 支援を行います。

Growing Together2023 進捗

YES-netを活用したCO。排出量の見える化から設備更新・ 再エネ導入までワンストップソリューションでお取引先様の カーボンニュートラルを推進しております。P5参照 家庭向 けには太陽光発電設備・蓄電池に加え、電気自動車の普及 で注目されている V2H (Vehicle to Home) システムを組 み合わせたソリューションをご提案しております。





新流通事業



お取引様との電子商取引 (Growing Navi)事業を拡大します。

Growing Together2023 進捗

これまで当社と販売先様を結ぶ「Growing Navi」を展開 してきましたが、2021年4月より販売先様(B)とユーザー様 (U)を結ぶB to B to Uシステムが稼働しております。 本システムは販売先様が自社のECサイトとして利用でき ます。



Growing Navi こ努めています。

(ID保有販売先)

Growing Navi B to B to U 展開イメージ ユーザー様(U) A社様 B社様 C社様 約550社 250万 アイテム YUASA

売上高 (単位:億円) ■計画 ■実績 161億円 (2022年3月期実績) 2020年 2021年 2022年 2023年 3月期 3月期 3月期 3月期

レジリエンス& セキュリティ事業



「防災・減災・BCP」をキーワードに、 安心・安全なモノづくり、すまいづくり、 まちづくりを支援します。

Growing Together2023 進捗

ゲリラ豪雨による市街地での内水氾濫や河川の増水に対 して、冠水検知・警告システム「キヅキミライ シグナル」を

提案しております。冠 水情報を無線通信で 遠方に設置した複数 の警告灯付き子機へ 送信し、冠水情報を 表示します。地下道 の冠水を警告するな ど、車両の立ち往生 を未然に防ぎます。





2020年 2021年 2022年 2023年 3月期 3月期 3月期

農業事業

Growing Together2023 進捗 ●収穫作業 運搬システムの拡販

19億円 2022年3月期実績) 50億円



ハンガーレール を活用した運搬システム

介護・医療事業



Growing Together2023 進捗

●補助金を活用した介護・医療施設 向け感染症対策の推進

68億円 (2022年3月期実績) (2023年3月期計画)

80億円



チャレンジ分野



Growing Together2023 進捗

飲料異物検査 装置の提案

食品事業

装置 [FaiND OUT 35億円 (2022年3月期実績) (2023年3月期計画)



シェアリング事業



Growing Together2023 進捗

●産業とくらしのネットレンタル 事業「かりるねっと」 事業開始

(2022年3月期実績)





コア事業戦略

ロジスティクス機能強化の取り組み

全国の物流機能強化のため経営管理部門内に「ロジスティクス戦略室」を立ち上げ、2019年8月より中部物流 センターの移転、関西物流センターの統合移転、2022年8月に九州物流センターの統合移転・エリア拡張を終え、 関東物流センターを含めた全国主要4倉庫の物流基盤を整備しました。また、当社独自のWMS(倉庫管理システム) の構築・主要倉庫への導入を行い、「物流をデータで捉える」仕組みづくりを推進しています。

ユアサ商事 九州物流センター 2022年8月17日より業務開始

九州地区の2か所に分散していた物流施設を ユアサ商事 九州物流センターに統合移転





保管エリア拡張

従来の約1.2倍となる倉庫面積の拡張

配送エリアは九州全域と沖縄をカバー 福岡市内へ当日配送が可能

サステナブル

大手オフィス家具メーカーとの共同配送により輸送 効率を高め、排ガスによるCO。排出を抑制

在康出荷全類 前年比:111%

| 上海山内並は、67年20・ 1 1 7 (単位:百万円) | | | | |
|------------------------------|----------|----------|----------|--|
| | 2020年3月期 | 2021年3月期 | 2022年3月期 | |
| 合計 | 26,852 | 24,758 | 27,391 | |
| 前年比 | _ | 92% | 111% | |

関東物流センタ・ 中部物流センター

● 札幌三信倉庫

関東物流センター保管エリアの4分の1を 無人搬送エリアとし、ロボットが自動搬送

自動化設備導入

2023年秋 予定

積載率向上を目的とした自動配車クラウドシステム 2022年1月に中部、関西へ導入済み

いつもの車両がいつもの届け先へ配送

AAの配送先・荷量に応じた最適ルート、最適車両をAIが自動計算







ドライバー専用アプリへ配送ルート案内

経営基盤の強化

デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

当社が持つ歴史や経験を可能な限りデータ化し、現在の仕入先様や販売先様のネットワークからの情報と、一般市場の情報を集約し、分析することで、新たなサービスや当 社独自の商品開発に結びつけ、「モノ売り」から「コト売り」への変革を実現してまいります。

「攻め|「中間|「守り」のフェーズに分け推進します

攻めのDX

データ、デジタルを活用した ビジネスの推進

中間のDX

ユアサ商事グループ内でデータ活用する 共通基盤を構築

守りのDX

業務改善や効率化を促進



上席執行役員 DX推進担当兼ESG推進管掌

広瀬 薫

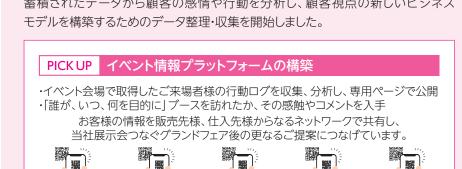
→ ユアサ商事のサステナビリティ推進 P5-P6

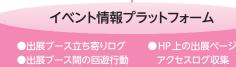
当社グループは、サステナビリティ経営を実践し350年以上引き継 いできた経営基盤を更に進化させ、持続的な社会の構築に向け貢献し てまいります。今後は、デジタル化を推進し、スピード感のある経営を サポートしてまいります。

特にDX(デジタルトランスフォーメーション)においては、「守り」の DXを経営基盤の強化と位置づけ推進しております。デジタル技術を 活用し、業務プロセスの刷新や、財務管理の強化、非財務情報の集約、 経営情報の見える化を実現することで、更にガバナンスを強化し、 経営基盤強化に取り組んでまいります。

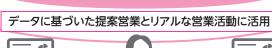
データ活用に向けたデータ整理と収集の開始

[モノ売り] から [コト売り] への変革に向け、あらゆる顧客視点でデータを収集し、 蓄積されたデータから顧客の感情や行動を分析し、顧客視点の新しいビジネス









販売先様

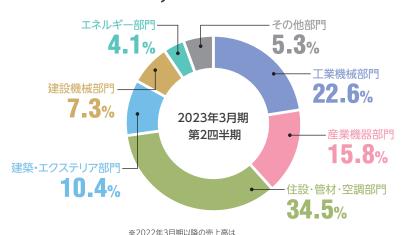


仕入先様

9 YUASA REPORT YUASA REPORT 10

セグメント別売上高構成比

売上高 2,340億18百万円



収益認識基準適用後の数値を記載しております。

産業機器部門

売上高

370億60百万円

前年同四半期 349億50百万円

半導体関連産業を中心に工場稼働率は高く推移したものの、車載半導体の供給不足により引き続き自動車関連産業を中心に減産などの影響がみられた。当社の取扱商品である、油圧機器・検査測定機器の需要は堅調に推移した一方、納品までのリードタイムが長期化。



2022年 3月期 2023年 3月期

(第2四半期)

2021年 3月期

工業機械部門

売上高

528億74百万円

前年同四半期 427億67百万円

供給網の混乱により、自動車関連産業を中心に生産調整や長納期化などの影響があったものの、補助金政策により、半導体・産業機械向けの工作機械新規受注は堅調に推移。海外では、原材料費・輸送費の高騰や円安の進行などの影響がみられたが、東南アジアや米国では経済活動の本格化により、新規案件は増加。







住設·管材·空調部門

売上高

807億43百万円

前年同四半期 768億33百万円

戸建てを中心に新設住宅着工戸数に弱い動きがみられたものの、新築マンションやリフォーム需要は堅調に推移。一部商品に納期遅れなどがみられたが、換気・空調関連機器などの販売は底堅さを維持。再生可能エネルギー分野では、蓄電池や周辺機器などの販売が堅調に推移。





建築・エクステリア部門

売上高

242億32百万円

前年同四半期 215億33百万円

物流施設やマンション建設が増加し、 エクステリア商材及び建築金物商 材を中心に堅調に推移するとともに、 物置や宅配ボックスのニーズが高ま り、販売が増加。また、公共設備投 資では自然災害対策や通学路・交 差点の交通事故の防止対策商品な どが底堅く推移。







建設機械部門

売上高

171億89百万円

前年同四半期 151億86百万円

インフラ整備、災害復旧、防災・減 災工事などの公共工事とともに、民 間設備投資も堅調さを維持。レンタ ル会社の建設機械需要や土木系商 材の需要も底堅く推移。一方、車載 半導体をはじめとした部品不足によ る建設機械の長納期化や資材・エネ ルギー価格の高騰、建設技能者不 足の影響が波及。





エネルギー部門

売上高

95億33百万円

前年同四半期 86億32百万円

経済活動の正常化が更に進み、需要が回復。一方、ウクライナ情勢によるエネルギー供給懸念や円安の進行により原油価格が高騰し、ガソリン・軽油などの石油製品価格に影響が続いたが、政府の施策により急激な上昇は抑制。





(第2四半期)

その他部門

^{売上高} 123億84百万円

前年同四半期 112億96百万円

消費財事業では原材料費高騰や円安の影響とともに、天候不順も重なり厳しい販売状況で推移。ネット販売事業においては、多様化する消費者ニーズに対応し、拡販に注力。木材事業では急激な円安の進行や生産国における都市封鎖の影響がみられたが、新規仕入先開拓や国産材を活用した商材を開発及び拡販。

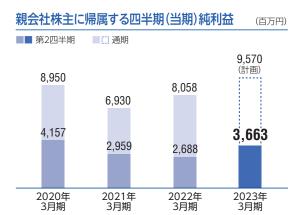
















^{※「}収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日) 等を2022年3月期の期首から適用しており、2022年3月期以降の数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

会社概要

商 号 ユアサ商事株式会社 YUASA TRADING CO.,LTD.

本 社 東京都千代田区神田美土代町7番地

創 業 1666年 (寛文6年) 3月

設 立 1919年 (大正8年) 6月25日

資 本 金 20,644百万円

従業員数 2,541名(連結) 1,106名(単体)

取締役及び監査役

| 7 | 名前 | 役職 | 管掌 |
|--------|-----|------------------------------------|---|
| 田村 | 博之 | 代表取締役社長 | 兼 海外事業推進担当 |
| 佐野ス | 木晴生 | 代表取締役専務 経営管理部門統括 | 兼 地域・グループ担当 兼 輸出管理委員会委員 兼 倫理・コンプライアン 委員会委員長 兼 内部統制委員会委員 |
| 田中 | 謙一 | 専務取締役 営業部門 統括 住環境マーケット 事業本部長 | 兼 ユアサプライムス(株) 代表取締役会長 |
| 中山 | 直美 | 取締役 建設マーケット 事業本部長 | |
| 濱安 | 守 | 取締役 工業マーケット 事業本部長 | 兼 ㈱国興取締役会長 兼 ユアサネオテック㈱ 代表取締役会長 |
| 前田 | 新造 | 取締役(社外) | |
| 戸谷 | 圭子 | 取締役(社外) | |
| 木村 | 恭介 | 取締役(社外) | |
| 古本 | 好之 | 監査役(常勤) | |
| 前夛 | 威 | 監査役(常勤) | |
| 鶴田 | 進 | 監査役(社外) | |
| 本田 | 光宏 | 監査役(社外) | |

国内ネットワーク

主な国内グループ会社

国内拠点

31拠点(8支社、13支店、10営業所)

| 産業機器 | 株式会社国興 中川金属株式会社 永井産業株式会社 |
|----------|--------------------------------|
| 工業機械 | |
| | ユアサクオビス株式会社 |
| | 友工商事株式会社 |
| | 浦安工業株式会社 |
| 住設・管材・空調 | 株式会社マルボシ |
| | 株式会社サンエイ |
| | 株式会社高千穂 |
| | フシマン商事株式会社 |
| | ユアサマクロス株式会社 |
| 建設機械 | 富士クオリティハウス株式会社 |
| | 株式会社丸建サービス |
| エネルギー | ユアサ燃料株式会社 |
| | ユアサプライムス株式会社 |
| その他 | ユアサ木材株式会社 |
| | |

ユアサシステムソリューションズ株式会社

海外ネットワーク

| 主な海外グループ会社 | |
|--|--------|
| 湯浅商事(上海)有限公司 | 中国 |
| YUASA TRADING (TAIWAN) CO.,LTD. | 台湾 |
| YUASA TRADING (THAILAND) CO.,LTD. | タイ |
| YUASA ENGINEERING SOLUTION (THAILAND) CO.,LTD. | タイ |
| PT. YUASA SHOJI INDONESIA | インドネシア |
| YUASA MECHATRONICS (M) SDN. BHD. | マレーシア |
| YUASA TRADING (PHILIPPINES) INC. | フィリピン |
| YUASA TRADING VIETNAM CO.,LTD. | ベトナム |
| YUASA TRADING INDIA PRIVATE LIMITED | インド |
| YUASA-YI, INC. | 米国 |
| YUASA SHOJI MEXICO, S.A. DE C.V. | メキシコ |
| | |

株式の状況

発行可能株式総数・・・・・・・・40,000,000株 発行済株式総数・・・・・・23,155,882株 (自己株式1,285,289株を含む) 株主数・・・・・・・・・・・7,601名

大株主 (上位10名)

※単元株式数は100株であります。

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|---|---------|---------|
| 本マスタートラスト信託銀行 式会社 | 2,596 | 11.87 |
| NYM AS AGT/CLTS OPERCENT | 926 | 4.23 |
| TATE STREET BANK AND RUST CLIENT OMNIBUS CCOUNT OM02 505002 | 900 | 4.11 |
| アサ炭協持株会 | 880 | 4.02 |
| 式会社日本カストディ銀行 | 825 | 3.77 |
| 部ユアサやまずみ持株会 | 673 | 3.08 |
| 公通信株式会社 | 644 | 2.94 |
| 運部ユアサやまずみ持株会 | 612 | 2.80 |
| 式会社三井住友銀行 | 554 | 2.53 |
| アサ商事社員持株会 | 519 | 2.37 |
| | | |

- 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
- 2. 持株比率については、自己株式を控除して算出し小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。
- 3. 当社は自己株式1,285千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。なお、自己株式には、役員報酬BIP信託が保有する当社株式(171千株)は含まれておりません。
- 4. 上記信託銀行持株数のうち、当該信託銀行の信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社 2,596千株株式会社日本カストディ銀行 825千株

株主メモ

| 事 業 年 度 | 4月1日から翌年3月31日まで |
|--------------------|-----------------|
| 期 末 配 当 金 受領株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 111 > 6 66 66 68 1 | |

株主名簿管理人

| 特 | 別 | | | 座 | の | 二変 |
|---|---|---|---|---|---|----|
| | 座 | 管 | 理 | 機 | 関 | |

= 菱UFJ信託銀行株式会社

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料)

送

先 〒137-8081

新東京郵便局私書箱第29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場

公告の方法 電子公告により行う

公告掲載URL

https://www.yuasa.co.jp/ir/stock/announce.html (ただし、電子公告によることができない事故、その 他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞 に公告いたします。)

ご注意

- (1) 株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきま しては、原則、□座を開設されている□座管理機関(証券会社等)で承ることとなってお ります。□座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三 菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が □座管理機関となっておりますので、上記特別□座の□座管理機関(=菱UFJ信託銀行) にお問い合わせください。

株主様インフォメーション

統合報告書「YUASA INTEGRATED REPORT 2022」を発行

当社は2020年より統合報告書を発行しております。2022年 版では、ユアサビジョン360や中期経営計画の取り組みに加え、 最新の事業事例やサステナビリティ経営の取り組みについてご 紹介しております。





https://www.yuasa.co.jp/ir/library/corporate_report.html

「 グランドフェア2022」 を開催

2022年7月から9月、全国5会場において、 展示会 [つき) グランドフェア2022 | を実施いたし ました。今回のグランドフェアでは、「モノづくり」 「すまいづくり」「環境づくり」「まちづくり」の分野で 新たな価値創造による社会課題の解決を目指し て、最新の商品・ソリューションをご紹介しました。 現場で役立つセミナーも多数開催し、全国5会場合 計で32.607名のお客様が来場されました。









動画配信のご案内

当社ホームページにて、2023年3月期第2四半期決算説明会の動画を 公開しておりますので、是非ご覧ください。

https://www.yuasa.co.jp/ ir/index.html











